

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	脳内サイトカインによる中枢神経機能の制御メカニズム：分子から精神活動へ	研究代表者名	那波 宏之
-------	-------------------------------------	--------	-------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ () 概ね予定どおり達成した
- ウ (×) 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
炎症性サイトカインの脳機能への影響は興味ある現象であり、今後の研究課題を提起している。分子的解析が極めて不十分であった。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア () 十分に貢献できた
- イ () 概ね貢献できた
- ウ (×) 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
臨床医学（精神医学）などへの波及効果は期待できるものの、基礎研究としてのインパクトに欠ける。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ (×) 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
興味ある薬理的観察をしているが、その機構解析が不十分である。新しい学術創成に至っていない。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ (×) 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
公表も必ずしも満足行くレベルに達していない。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
	A	期待どおり進展した
×	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

免疫系と神経系の連関という意味では興味ある知見を得ている。それらからは今後の精神医学などへの波及効果も期待できる。しかし、分子メカニズムの解析と言う点では物足りなさがあり、学術創成としての所期の目的を十分に果たしたとは言い難い。論文などの公表も十分とは言えない。